

発生から今日に至るまでの経過について、できるだけ具体的・客観的・系統的に究明し、問題を確認する。

4 資料・情報

(1) 事例史（生育歴等）

生育歴を中心にして、問題の発生および経過を考察するうえで、必要不可欠な情報である。

具体的には、本人の出生前の状況、胎児（生）期の状況、出生時の状況、新生児期の状況、乳児期の状況、幼児期——保育所・幼稚園の状況、学齢時——小学校の状況、中・高校時代の状況などにわたって、詳しく記述される必要がある。なお、本人が幼児であるか、児童であるか、中学生であるかなどによって、それぞれの状況への重点のかけ方は異なってくるであろう。

〈例〉

家族、親類でも、初孫だということで期待をかけられて出生した。妊娠中は特にひどいつわりもなく、満期出生。出生時の体重は3150gあり、母乳も豊富で、乳をよく飲んですくすく育った。

たいした病気もせず、他人からは素直でかわいい子という印象を受けている。

幼稚園に入園する際、一時的に登園をいやがったことがある。

(2) 身体的状況

〈例〉

身長 150cm、体重41kg。やせ身で青白い顔の表情である。病身のような感じを受ける。

(3) 人柄、性格、行動など

〈例〉

学級の中ではあまり目立たない存在である。人なつっこい反面、頑固で意地っばりのところが見られる。負けん気の強い方である。孤立傾向も強い。

(4) 教育の状況